

「アジア解放」の美名のもとに インドネシア・日本軍占領下での性暴力

1942年3月、日本軍は蘭印軍を破り、蘭領東インド(現在のインドネシア)を占領統治しました。

「アジアの解放」をスローガンに掲げた日本軍でしたが、資源と食糧を奪い、男たちを戦場へ動員し、女たちを性奴隷にするという、むき出しの暴力による圧政に、人びとは日本の真意を見抜いていきました。

2015年7月1日(水) - 2016年6月26日(日)

開館時間:水～日 13:00～18:00 休館日:月・火・祝日・年末年始

：議題はどうやって至急に元のような慰安所をつくるために慰安婦を多く集めるかということだった。：問題は現地人をどうまくまかすかが会議の本当の議題でしかなかった。
『海軍特別警察隊 アンボン島BC級戦犯の手記』

黄阿桃
1923年
台湾生まれ



19歳のとき、南洋へ行けば仕事があると騙されて、セレベス島のマカッサルへ。椰子の葉でつくった建物へ入れられました。夜になると日本兵がきて、強かんされました。苦痛で気を失いそうでした。日本兵は戦争に負けると逃げ帰り、私たちは放り出されたのです。

スラバヤは大都合だった。：キャバレーもあれば飲み屋もあった。もちろん慰安所も、缶入の飯も、：少尉の給料が八三三三銭だったかと思う。：慰安所が時間五十銭、泊りで一円だったか。
『われら斯く戦えり』



金福童
1926年
朝鮮生まれ

16歳の頃、黄色っぽい服の日本人と、区長と班長が家にきて、娘をテイシンタイ(挺身隊)に送るよう、母に言いました。拒否すれば逆罪と言われ、行くしかありませんでした。工場の仕事と言われたのに香港、シンガポール、スマトラ、マレーシア、ジャワの慰安所へ入れられました。

：現地の華僑系の姑娘とか、アチエ娘バタック娘であって、：○○○○的にあはずれでなし、結構気持よく○○○○を楽しませてくれたそうです。
『横須賀重砲部隊東南アジア従軍記』



マリアム
1929年
スカブミ生まれ

スラバトウにあった学校から帰る途中、4人の日本兵に取り囲まれ、キリスト教会の近くにあった建物に入れられました。軍医が来て性病検査をされました。私のことを最初に犯したのは、ツムラという兵士です。13歳だった私には、とても年をとっているように見えました。



スリ・スカンディ
生年不詳
グンディ生まれ

2人の日本兵に家から連れ出されました。父も母も抵抗しましたが、無理やり近くにあるゲドゥン・ババックという屋敷に連れて行かれました。オガワという日本兵がいて、私は人形のように風呂に入れられ、服を着替えさせられ、そして、朝まで何回も犯されました。9歳でした。

：十八歳ぐらいのものすごいまじめな少年が、戦地から日本に帰れないことがわかり、現地で四十歳の慰安婦を抱いて、わずか一時間でも慰めてもらう、そのことにすごく感謝している。：私はそれを愛だと思っ。
『期待と回想(下巻)』



オモ・サラマ
生年不詳
チマヒ生まれ

顔見知りの日本兵から、仕事があったらシンパン通りにある事務所へ来るようにと言われ、行きました。数日後に性病検査をされ、その軍医から強かんされました。私は17歳でした。それからは何人もの兵士との性行為を強要されました。



サイダ
生年不詳
シヨグジャカルタ生まれ

区長をしていた父から、ミナトという日本兵のニョニヤ(奥横)になるように言われ、コタバルにあった日本軍の将校用宿舎に連れて行かれました。ミナトと会った時は、怖くて身体がひきつりました。私は妊娠し、8か月になった頃、家に帰されました。生まれたのは男の子でした。



ウイダニンシ
生年不詳
ワルンキヤラ生まれ

15歳のとき、一人で留守番をしていると、6人の日本兵が家にやってきて、車に乗せられ、目隠しをされ、村にあったオランダ人の古い建物へ連れて行かれました。部屋に入れられた途端、手足を押さえられ強かんされました。部隊の移動に伴い、ボゴール、バンドンへ連れて行かれました。

：蓮田という面白い中尉がいて、ストッパウオッチで平均値をとってみた。部屋に入ってゲートルをとって、遊び、ゲートルを巻いて出てくるまで、平均五分間であった。
『ある軍医のらくら戦記』

：十人未満の慰安婦に対して一人で一日当たり二十人もの男性を相手にするので、同じ分隊でも○○兄弟ができて、○○○○が大きいとかやり具合がどうかとの批評話しが休養日で外出帰りの話題となった。
『横須賀重砲部隊東南アジア従軍記』